



## 『インフェルノ INFERNO』の舞台フィレンツェ

10月28日に日米同時公開の、トム・ハンクス主演の映画『インフェルノ Inferno』。フィレンツェと、ヴェネツィアも舞台となっており、原作は「ダ・ヴィンチコード」でも有名なダン・ブラウンの推理小説。内容はおなじみ主人公のロバート・ラングドン教授が人類の危機を救うため、詩人ダンテの叙事詩「神曲」の地獄篇（インフェルノ）に隠された秘密に挑むというもの。10月8日には映画のワールドプレミアも主な舞台であるフィレンツェで上演されました。

映画はフィレンツェ中心部の観光スポットでも撮影されており、公開後はフィレンツェ旅行者の注目もさらに集まりそうです。原作の『インフェルノ』に登場する、フィレンツェの主な場所や関連スポットを簡単にご紹介します。

### 1. ロマーナ（ローマ）門 Porta Romana

主人公の2人が日市街を目指して向かった、中心部南西にある門で、1326年、町を囲む城壁を最後に拡張した時その一部として建築されました。広場の大理石像は街の外側を向き、頭上の人物像は街の内側を向き、街の過去と現在の象徴といわれています。

### 2. ボーボリ庭園 Giardino di Boboli

世界遺産『メディチ家の館群と庭園』の一つで、メディチ家の居城ピッティ宮殿の裏手に広がる広大な美しいイタリア式庭園。意匠を凝らした噴水、洞窟、彫像なども点在し、そのうちのジャンボローニャによる幻想的なブオンタレンティの洞窟 Grotta del Buontalenti や、ネプチューン噴水、庭園を東西に走る糸杉が道の両側に並び通りヴィオットローネなども「インフェルノ」に登場します。（なお、庭園への入場券はピッティ宮殿内の複数の美術館との共通券です。）

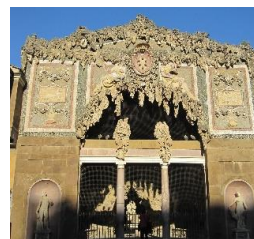


### 3. ヴァザーリ回廊 Corridoio Vasariano（ヴェッキオ橋上部）

ヴェッキオ橋 Ponte Vecchio の上階を通過するこの廊下はメディチ家の居城であるピッティ宮殿と、執政所であったウフィツィの建物を結ぶために、1565年、ヴァザーリ設計・監督により完成。メディチ家の人々が民衆に合わず通行が出来た通路で、廊下には多くの肖像画が飾られています。公開は期間限定。回廊見学がついたツアーを設定している旅行業者もあります。

### 4. ヴェッキオ宮殿 Palazzo Vecchio

アルノルフォ・ディ・カンビオにより1314年に建設され、伝統的にフィレンツェ政庁がおかれ、現在も市庁舎となっていますが、内部の一部は美術館として。16世紀にメディチ家のコジモ1世が住み、ヴァザーリによる改装で贅を凝らした部屋が造られ、原作・映画にも登場する『500人広間 Salone dei Cinquecento』は圧巻。高く持ち上げられた吊り天井、大広間を飾る巨大壁画の中に、ヴァザーリの絵画「マルチャーノ・デッラ・キアーナの戦い」もあります。「500人広間」は、一般公開されていますが、会議やイベント・行事で使用の際は見学出来ないこともあります。ヴェッキオ宮殿内には、他にも地球儀のある「地図の間」「ダンテのデスマスク」などもあり、ヴェッキオ宮殿内の「インフェルノ」に関するツアー始め、興味深い



様々なガイドツアーなども体験することができます。

詳細：<http://musefirenze.it/en/musei/museo-di-palazzo-vecchio/>

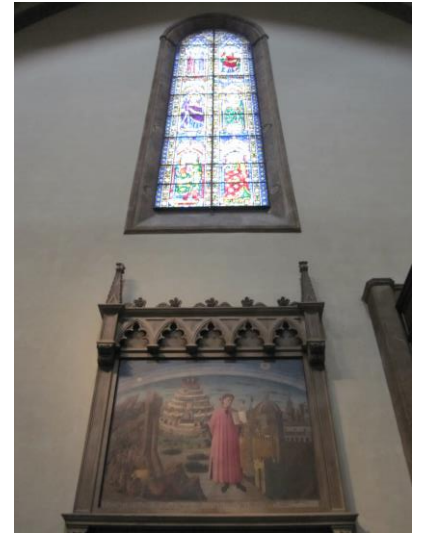
## 5. ダンテ博物館 Museo Casa di Dante

神曲の作者で詩人のダンテ生誕とされる建物で、内部は博物館となっています。

月曜休。原作「インフェルノ」でも休館日でした。

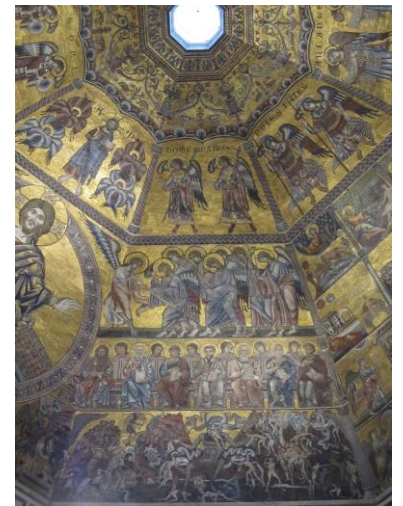
## 6. サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂(ドゥオーモ) Duomo

フィレンツェを代表する建物で、美しい緑、ピンク、白の大理石が縞模様を描くファサードや、世界最大のブルネレスキが設計したクーポラ(丸屋根)が印象的。内部も美しいフレスコ画で飾られており、クーポラにはヴァザーリのフレスコ画「最後の審判」が描かれています。階段でクーポラに登ることも出来、フレスコ画を近くで観ることも可能です。大聖堂入口からクーポラに向かって進むと左手の壁に、ドメニコ・ディ・ミケーリ作絵画「ダンテの神曲」があり、「神曲」を手に城壁の外に立つ赤衣装を着たダンテの姿が描かれています。



## 7. サン・ジョヴァンニ洗礼堂 Battistero di San Giovanni

八角形の形をした洗礼堂は、大部分が 11 世紀ロマネスク様式で、フィレンツェ生まれのダンテもここで洗礼を受けました。ドゥオーモに面した扉を飾るギベルティ作「天国の門」のブロンズパネルはミケランジェロも絶賛した傑作で、オリジナルは修復されドゥオーモ付属美術館に収蔵されています。内部には洗礼盤があり、天井は 13 世紀の色鮮やかなモザイクで飾られ、最後の審判が描かれています。



この他にも、原作・映画にはフィレンツェの観光名所が登場します。映画を

みて、原作を片手にフィレンツェ巡りをすると、通常の観光では気付かなかった見所を発見し、違う視点ですらに深くフィレンツェを理解することが出来るでしょう。

14 世紀にダンテが神曲の「地獄編 Inferno」で描写した地獄の様子に触発、イメージを得て、ルネッサンス期に多くの芸術家により「最後の審判」などで地獄の様子が描かれるようになったとも言われています。

フィレンツェの観光サイト：<http://www.firenzeturismo.it/en/>

映画インフェルノサイト：<http://www.inferno-movie.jp/site/#!/>